

第1セッション：食の生産と消費を結ぶ倫理の現在と未来：思想と実践から  
コーディネータ・座長：秋津元輝（京都大学）「食の倫理における思想と実践」

立川雅司（茨城大学）「Civic Food Networks 論：フードシステムを消費者／市民の立場から再構築する」

波多野豪（三重大学）「C S Aはなぜ注目されるのか：産消提携との比較から」

辻村英之（京都大学）『農業を買い支える仕組み』の倫理的基盤：産消提携理念とフェア・トレード」

今泉 晶（京都大学大学院）「なぜ自家採種を続けるのか：ある農家における『食べもの』と人との関係」

竹之内裕文（静岡大学）「いのちの次元から食を問いなおす：『食の倫理』のために」

要旨：

現代のフードシステムでは、農業生産現場と最終消費とを媒介する川中部分の決定力が拡大し、それに両端の産消が従属するという傾向が強まっている。しかし本来、農業者には生産の自由が、消費者には購買決定の自由がある。とくに、消費局面での食選択は需要内容を最終決定する意味で、原理上、フードシステム全体への影響力をもっている。本セッションではおもに消費側の視点から食をめぐる倫理的思想と実践に焦点をあてて、強化化する流通システムへの公正な対抗とオルタナティブな選択への道筋を検討する。最初に本セッションのフレームワークを述べた後、北米を中心として勢いを増す市民からのフードシステム変革とその一例であるC S A（Community Supported Agriculture）における倫理的特質、世界的に拡大するフェアトレードと日本の産消提携の比較、生産者でもあり消費者でもある農家の食倫理を検討する。最後に、倫理学の立場から「いのち」に遡る討議的实践によって、食倫理を問いなおす試みを提示する。